

2度の台風被害 工法等に問題なかったか

問題はなかったものと認識



木村洋子議員
(日本共産党)

問 小谷鳥漁港は23年の震災大津波で被災し、25年10月の台風26号で再び被災、昨年8月の台風でまた被災している。2度

の台風被害でなぜ壊れたのか。工法等に問題がなかったのか。昨年の台風では、南防波堤の消波ブロックの飛散で災害査定額6212万円とある。25年の台風26号の災害復旧の際に、消波ブロックの重量化をすべきとの提言が反映されなかったため被災するような事態になったのではないか。

佐藤町長 当漁港の災害復旧に当たっては県の立会いの下、国の災害査定において施工性や経済性を検討しながら、工法や設計数量を決定しており、工法等に問題はなかったと認識している。台風によって波浪状況が異なることから、消波ブロックを大型化しなかったことが昨年の災害の要因になったとは一概に言えない。引き続き国・県の指導を受けながら早期復旧に努める。



被災した小谷鳥漁港

その他の質問

- ◆田名部から関口に抜ける道路は、津波などの緊急時に備えて除雪すべきでは
- ◆除雪基準20センチ以上を10センチ以上に見直しては

空き家バンク 設置の考えは

実態調査し検討していく

問 空き家が徐々に増加しているように見受けられる。家主の不在等で空き家になり、今後どのように管理していけばいいのかと途方に暮れる親族もいる。

町長 29年度に社会資本整備総合交付金により、空き家実態調査を実施する。空き家バンクの設置については、戸数や規模、権利関係を慎重に精査しながら検討していく。

町としても空き家情報を「空き家バンク」として把握し、ニーズに沿った対応をしていくべき。また、いまだに自立再建

学校に除雪機配備すべき

維持管理難しく考えていない

問 学校の除雪は学校職員や雪かきボランティアが行っている場合が多いと思うが、人数も限られていることから、人力だけでは厳しい状況である。

佐々木教育長 積雪があった場合、学校敷地内は基本的に各学校において雪かきすることになっている。除雪機の配備は、メンテナンスなど維持管理が難しいことから考えていない。

積雪が多く雪が溶けにくい地域もある。効率よく雪かきができる除雪機

を必要とする学校には配備すべきではないか。